

LM Eと為替相場、米中貿易問題などがカギ

橋本健一郎氏リポート②

アルミ輸入は二次合金、スクラップが増加

三月前半は、北朝鮮が非核化などについて米国と対話する姿勢を表明したこと、ライアン下院議長が記者会見でトランプ大統領が打ち出した鉄鋼・アルミニウムの輸入制限に反対する姿勢を示したことなどのプラス材料もあったが、中国の二月の製造業購買担当者景況指数が五〇・三となり、事前予想の五一・二、前回の五一・三をも下回ったこと、米政権内で自由貿易の有力支持者だったコーン国家経済会議(NEC)委員長の辞任を受け、米国の輸入関税措置が推進されるとの見方が重しとなったことを嫌気しLM Eアルミ相場はDOWN、三月十五日時点で二、〇九六ドル(セツル)と月初価格から六二・五ドルDOWNの前半締めとなった。

後半は、米中貿易摩擦懸念の中、中国が米国の貿易摩擦の激化を回避するため海外の金融機関の資本規制の緩和や米国からより多くの半導体を購入することを検討していると報じた一などのプラス材料もあったが、トランプ大統領の中国輸入品への六〇〇億ドル課税命令や、中国の新地金生産は予想されたほど減っていないことが判明しDOWN、四月一日現在でLM Eアルミ相場(現物後場)一、九七ドルと後半スタート価格から六五・五ドルDOWNとしてのスタートとなった。

◆月間のドル/円レート(TTS)
一〇六・七→一〇六・五(円)

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比〇・二%減の八五万〇、一四二台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比四・九%減の四三万八、〇八四台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比二・六%減の六万九、〇七戸であった。

◆貿易関連指標

輸出
財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前年比一一・五%減の二二九t、二次合金が三七・七%減の一、四五三t、スクラップが一四%増の九、五九二t、アルミ缶が三・七

%減の五、五四一t。

輸入

輸入は新地金が前年比六・二%減の一三万〇、二三三t、二次合金が三・一%増の九万八、二二六t、スクラップが四四・一%増の七七九t、合金スクラップは一七・八%増の四、一四三t。

■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比二・五%減の一六万二、六〇九tと二カ月連続マイナス。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比二・七%増の六万七、四五三tであった。

■概況

【自動車生産】

二月の四輪車生産台数は八五万〇、一四二台で、前年同月比〇・一%減となり、二カ月連続で前年同月を下回った。

輸出は四一万六、五四六台で前年同月比一〇・九%増。

【自動車販売】

二月の国内自動車販売台数(軽は除く)は四三万八、〇八四台で前年比四・九%減と、六カ月連続マイナス。

このうち、乗用車四・九%減、貨物五・四%減、バス七・三%減。

【住宅着工数】

・平成三十年二月の住宅着工戸数は六万九、〇七戸で、前年同月比で二・六%減となった。また、季節調整済年率換算値では九二・六万戸(前月比八・二%増)となった。

・住宅着工の動向については、前年同月比で八カ月連続の減少となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家は減、分譲住宅は増となった。

(持家)

前年同月比では先月の増加から再びの減少(前年同月比六・一%減、季節調整値の前月比では三・七%減)。

(貸家)

前年同月比では九カ月連続の減少(前年同月比四・六%減、季節調整値の前月比では七・〇%増)。(六面へ続く)

(四面より続く)

(分譲住宅)

前年同月比では三カ月ぶりの増加(前年同月比三・四%増、季節調整値の前月比では七・一%増)。

・分譲マンション

前年同月比では三カ月ぶりの増加(前年同月比九・二%増)。

・分譲一戸建住宅

前年同月比では二カ月連続の減少(前年同月比一・二%減)。

【アルミウム二次合金 同合金地金等生産実績】

前年比二・七%増の六万七、四五三と五カ月連続プラス。出荷は二・九%増の六万八、四五九と五カ月連続プラス。

このうち、出荷先別では、鋳物〇・二%減、ダイカスト四・一%増、板〇・一%減、押出 二・一%減、鉄鋼一七・二%増、合金地金メーカ一五・九%減。

【アルミ圧延・押出品生産数量】

日本アルミウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比二・五%減の一六万二、六〇九と二カ月連続マイナス。このうち、板類は生産・出荷ともに二カ月連続マイナス。押出類は生産・出荷ともに二カ月連続マイナス。

【輸出】アルミ新地金が前年比一一・五%減の一・二九と、二次合金が三七・七%減の一、四五三と、スクラップが一四%増の九、五九二と、アルミ缶が三・七%減の五、五四一と。

【輸入】アルミ新地金が前年比六・二%減の二・三万〇、二二三と、二次合金が三・一%増の九万八、二二六と、スクラップが四四・一%増の七九七、合金スクラップが一七・八%増の四、一四三と。

【見通し】

・自動車は生産が〇・一%減。国内販売台数が前年比四・九%減。生産が二カ月連続マイナス。販売が六カ月連続マイナス。微減ではあるが生産が二カ月連続マイナス、生産・販売ともマイナスが今後も続くか注意が必要。

・住宅着工の動向については、前年同月比で二・六%減と八カ月連続マイナス。下げ幅が縮小するも、下落傾向かどうか今後の動向に注目。

・アルミ圧延・押出品生産数

板類・押出生産合計は前年比二・五%減の一六万二、六〇九と、二カ月連続マイナス。今後マイナスが続くかの動向に注目。

アルミウム二次合金・同合金地金等生産実績
前年比二・七%増の六万七、四五三と五

カ月連続プラス。出荷は二・九%増の六万八、四五九と五カ月連続プラス。プラス傾向が続くか注目。

・アルミ輸出は内需用途から減少、ただ、スクラップに関しては人手不足問題からの地金優先使用をうけて増加した。

・アルミ輸入は自動車生産の堅調から二次合金及びスクラップは増加、その他は減少。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は、足元は自動車生産、住宅着工などが減少傾向にあり、またメーカの期末の買い止めの反動や価格の下落にともない放出されるのではない。

需要面に関しては、前月に続き自動車の生産と販売が同時連続減少していることや、アメリカのアルミへの関税問題への警戒感から購買意欲は薄いのではないか？

【価格・為替予想】

今月は米中貿易摩擦の動向や朝鮮半島の地政学リスク問題に左右される。

米中貿易摩擦に関してしては、トランプ大統領の交渉術から考えれば、何かしらの取引が行われることは間違いなく、中国もそれに対抗及び対応する姿勢を見せていることから一喜一憂するものの、結果的には落ち着くのではない。

朝鮮半島問題に関しては、北朝鮮最高指導者が南側の公演を初めて観覧するなど異例の対応を見せているものの、歴史的に裏切られた経緯もあり、早急に解決するかどうかは未知数。ただ、今月にいきなり手のひらを返す可能性は低いのではないか？

それらを踏まえた四月のアルミ価格は、米中貿易摩擦が起これば交渉の範囲内であり、北朝鮮問題が大きな問題を起こればなかった場合、先月高値の二、二〇〇ドルを予測。いずれの場合も二、一〇〇ドル。下値はいずれの条件も達成できなかった場合、先月安値の一、九〇〇ドル。

為替は、前記材料からドル円値は一〇四円一〇七円(TTM)台を予測。

スクラップ購買価格に関しては〇・一〇円安程度と予測している。

◇東工取(四日前引、限月四月)

金	四、五六一円
銀	五六・一〇
白金	三、一八一円
パラジウム	出来、ず